



『当院におけるCOVID-19疑い患者の 救急搬送受け入れ状況と課題』

公益社団法人 日本海員掖済会
名古屋掖済会病院 感染対策室
横井 博子

病院紹介

日本海員掖済会

明治13年海員掖済会、
明治20年日本海員掖済会：海員の福利厚生を行う
公益社団法人第1号

全国の港の近くに
海員の寄宿所を設立したり、職業紹介をしたりする、
海員の福利厚生を行うことから始まり
現在では、主として医療施設を中心とした医療活動を
展開している。



明治14年6月 東京府品川 心海寺 海員寄宿所を設置

名古屋掖済会病院 概要

病床数：**602**床

- ・救命救急センター56床
- ・緩和ケア病棟19床
- ・地域包括ケア病棟47床

◎災害拠点病院指定

◎愛知県がん診療拠点病院指定

標榜診療科数：**34**科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、外科、腫瘍内科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、心臓血管外科、肛門外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、リウマチ科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、緩和ケア内科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科、口腔外科

2019年度実績

平均在院日数：**11.5**日

1日平均外来患者数：**1,367**人

1日平均入院患者数：**501**人

年間手術件数：**5,236**件

救急搬送数：**10,119**件

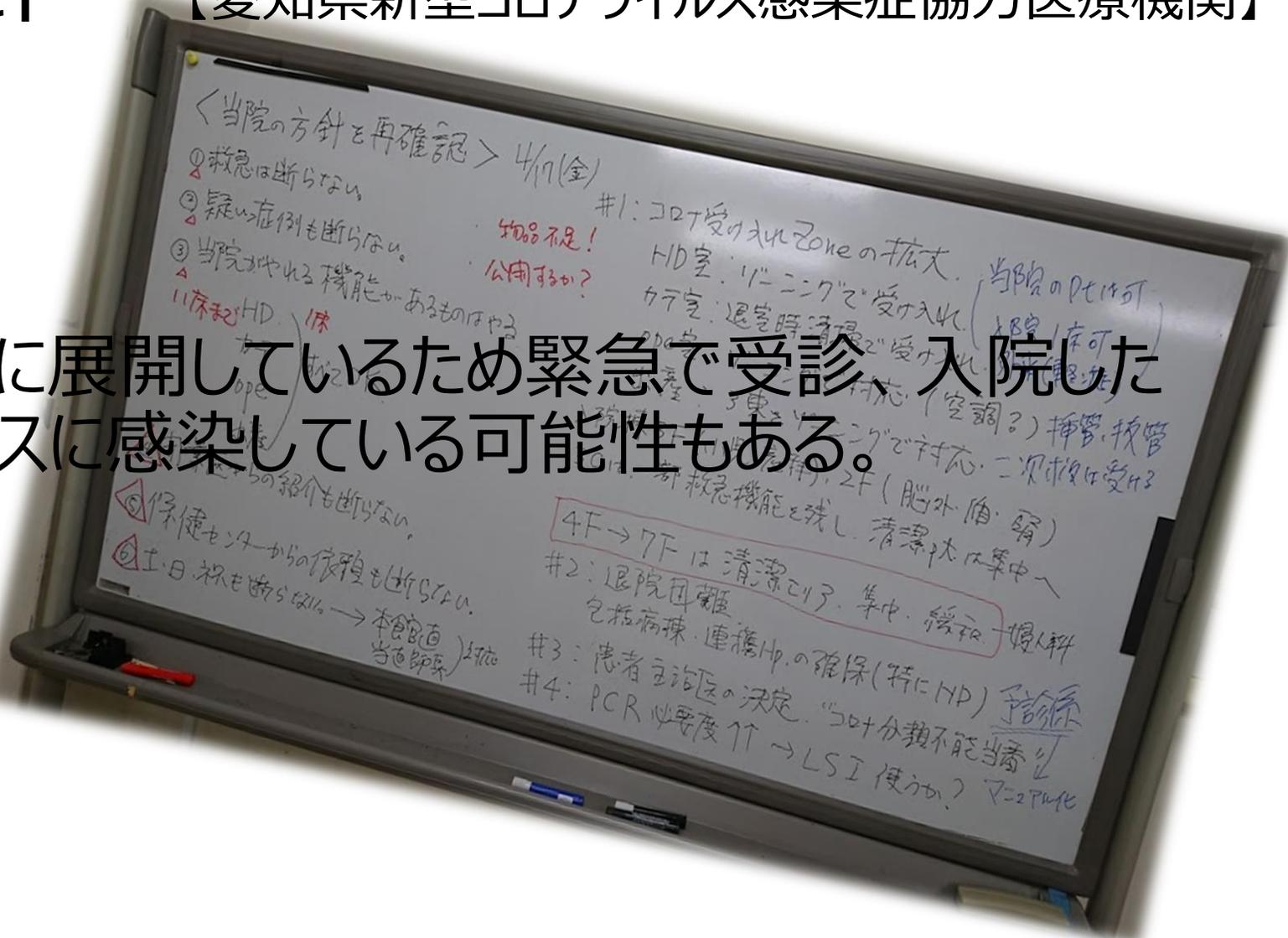
感染対策室の方針

【愛知県新型コロナウイルス感染症協力医療機関】

①通常診療の継続

当院は、救急医療を軸に展開しているため緊急で受診、入院した患者が新型コロナウイルスに感染している可能性もある。

②患者・職員を守る



救命救急センター【初療室】



鼻咽頭ぬぐい液の検査を受けられる患者様へ

ビニール袋をかぶって頂いた状態で、
検体採取をおこないます。

ご協力お願い致します。



インフルエンザ等の感染症の検査のために、鼻咽頭ぬぐい液を採取します。
患者様の鼻に綿棒を差し込む検査のため、時にはくしゃみや咳をされたりする
行為です。

新型コロナウイルス感染症が流行しております。十分な予防策をせず行った後に、
もしも患者様が新型コロナウイルス陽性と診断されたら、検査を行った医師や看護師は
感染リスクが高い濃厚接触者に当たります。また、周りの環境にウイルスが飛ぶことも
懸念されます。

そのため、写真の形で検体採取にご協力をよろしくお願い致します。

疑問点等ありましたらいつでもお知らせください。



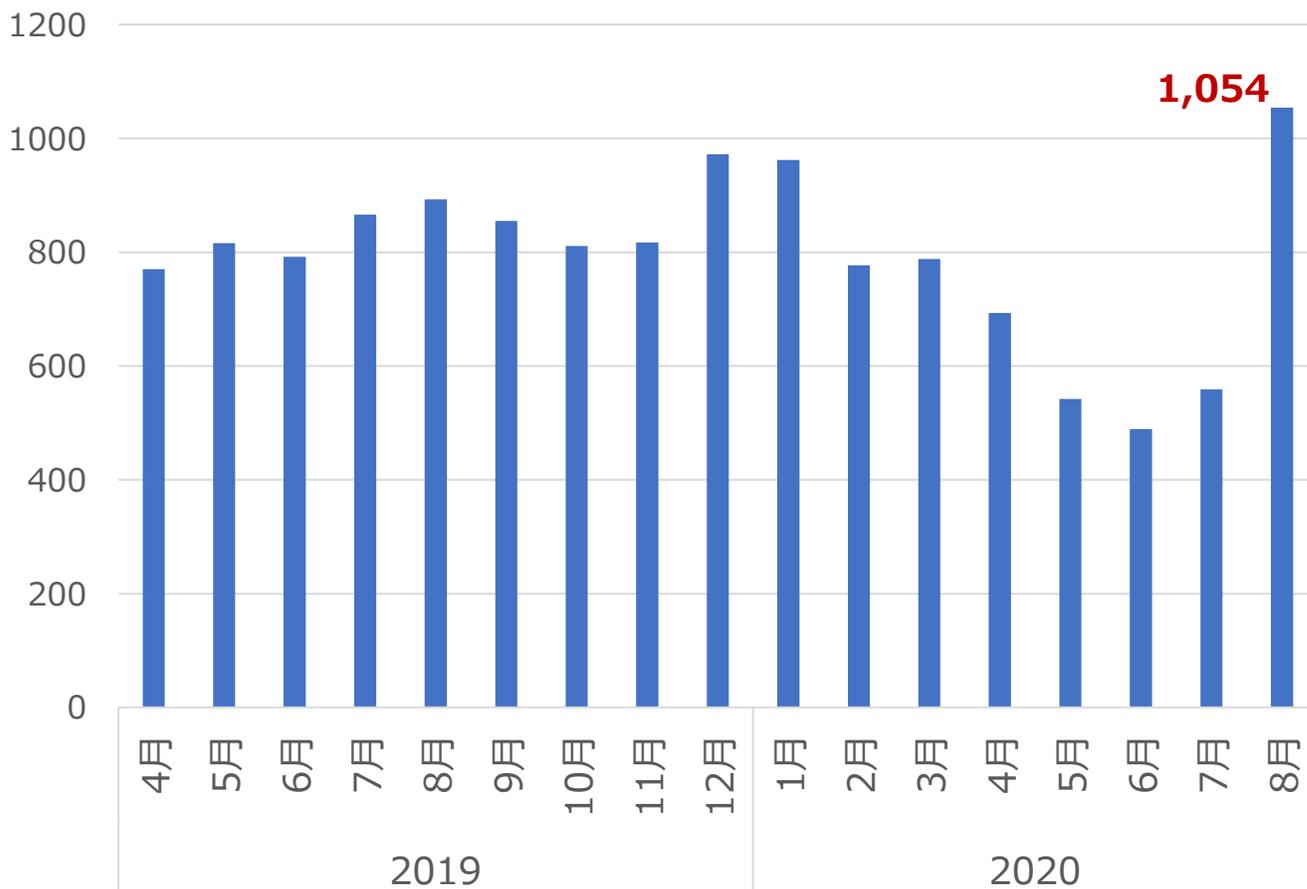
一般社団法人 日本清濁検査学会
名古屋検査会病院



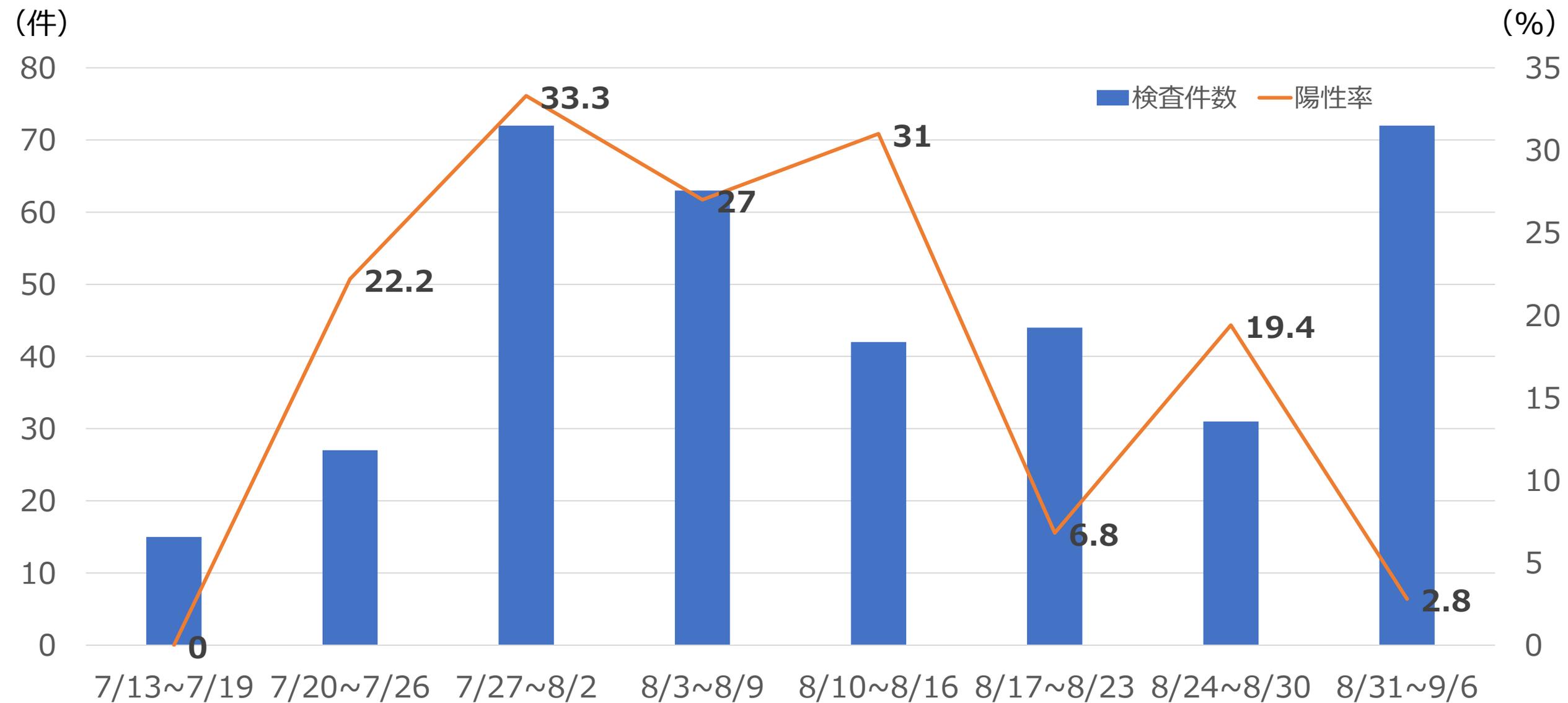
初療室受診患者数（人）

時間内	時間外	合計
6,987	33,433	40,420

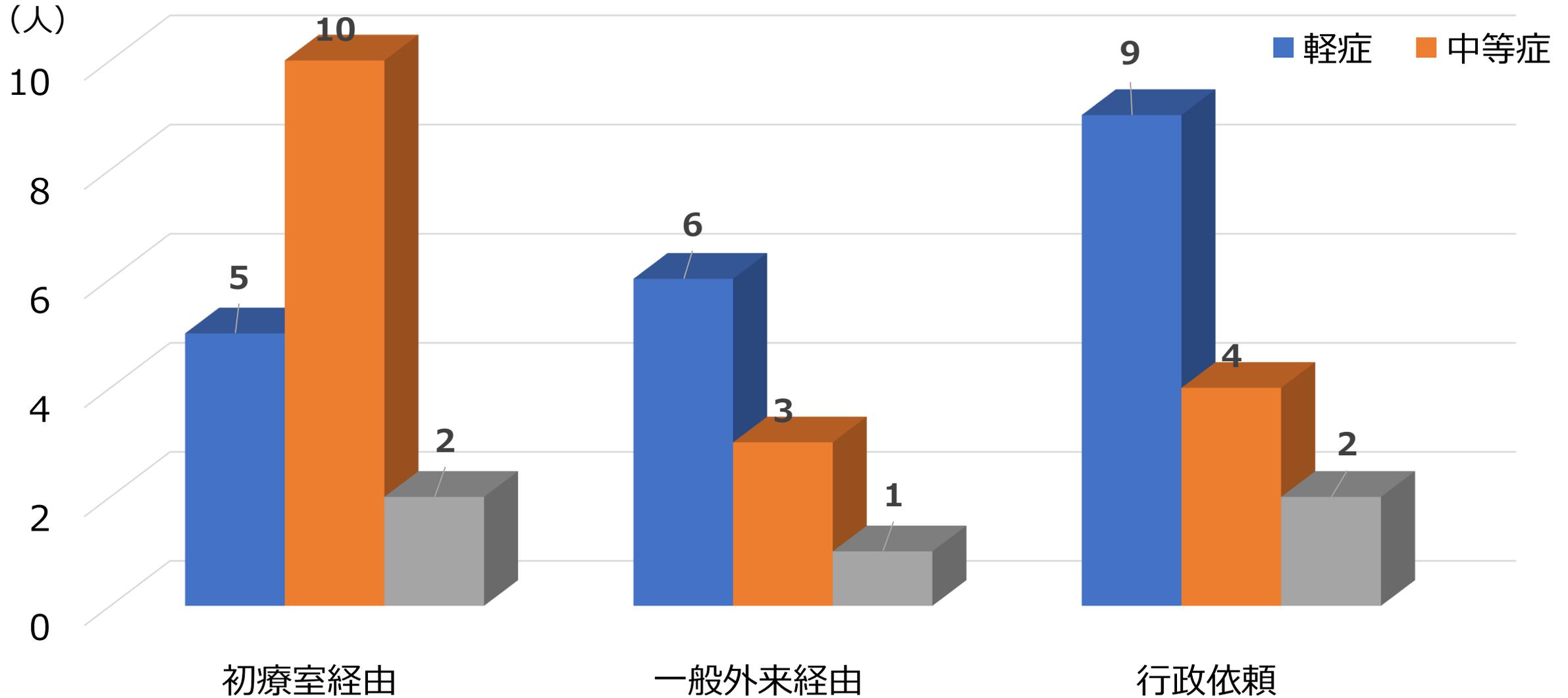
救急車台数（台）



PCR検査数と陽性率（2020/7月～8月）



入院患者重症度別内訳



救命救急センター【病棟】

レッドゾーン=個人防護具着用し、入室

イエローゾーン=スクラブ、白衣で可



対策；標準予防策＋飛沫・接触感染対策



★トイレ使用状況★ 9月27日～

	対象
A	COVID疑似症例
B	18番台の陰性化した症例
C	COVID疑似症例
F	COVID陽性症例
G	COVID陽性症例
H	待合女性 (COVID陰性症例)
I	待合男性 (COVID陰性症例)
J	34号室



個室管理の限界

- ✓ 中等症で酸素投与を要する
- ✓ 咳嗽している患者が多い

疑い患者と陽性患者が同じフロア内

- ✓ 受け持ちNSは別にする
- ✓ 頻回なベッド移動 = 清掃の負担

第1波（2月～6月頃）後、全職員へクイズの実施

10 ○×クイズ			
咳等の呼吸器症状のない新型コロナウイルス陽性患者に接する際は、N95マスクは必須である。	○		451 49.2%
	×		466 50.8%
新型コロナウイルスのPCR検査の結果が陰性的場合は、新型コロナウイルス感染症ではない。	○		173 18.9%
	×		744 81.1%
アルコール消毒を用いた手指衛生は、10秒間で充分である。	○		118 12.9%
	×		799 87.1%
当院では新型コロナウイルスのPCR検査を院内で実施できる。	○		258 28.1%
	×		659 71.9%
新型コロナウイルス感染症は発症時の感染力が一番強い。	○		206 22.5%
	×		711 77.5%
		合計	4585



正解はすべて×

N95マスクの使用場面について

新型コロナウイルス感染症に対する感染管理

改訂 2020年6月2日 国立感染症研究所 国立国際医療研究センター 国際感染症センター

1) 上気道の検体採取を実施する場合（鼻咽頭ぬぐい液採取等）

サージカルマスク、眼の防護具（ゴーグル、フェイスシールド等）、長袖ガウン、手袋を装着する

2) 唾液検体採取を実施する場合

検体を回収する際には、サージカルマスク、手袋を装着する

**エアロゾル発生しない
=サージカルマスク**

3) **エアロゾルが発生する可能性のある手技（気道吸引、気管内挿管、下気道検体採取等）**

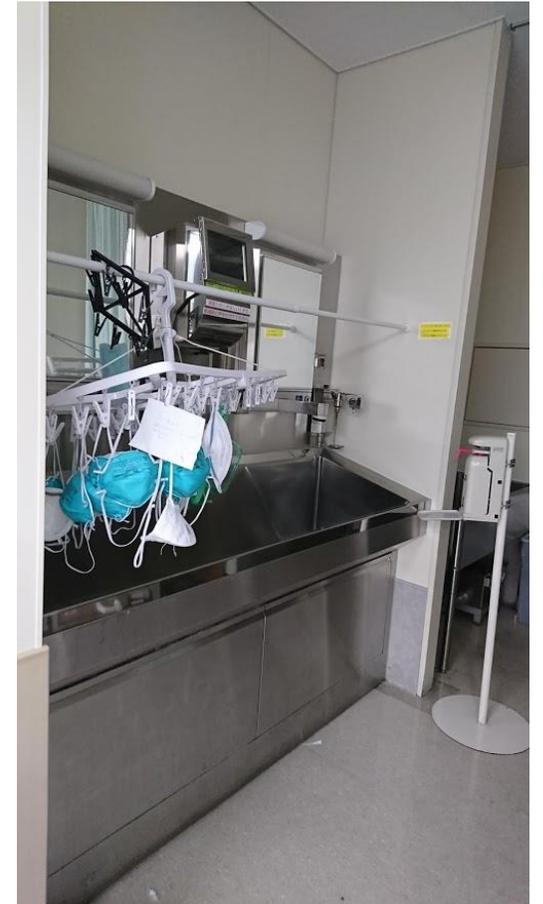
N95 マスクまたはそれと同等のマスク、眼の防護具（ゴーグル、フェイスシールド等）、長袖ガウン、手袋を装着する

回収 ➡ パッキング ➡ 滅菌 ➡ 干す ➡ 再使用



- ◆滅菌器；V-PROMAX
- ◆滅菌工程；ノンルーメン約28分
- ◆1回滅菌数；最大10パック
- ◆対象マスク；1860/1870
- ◆当院採用マス；1860/VFLEX

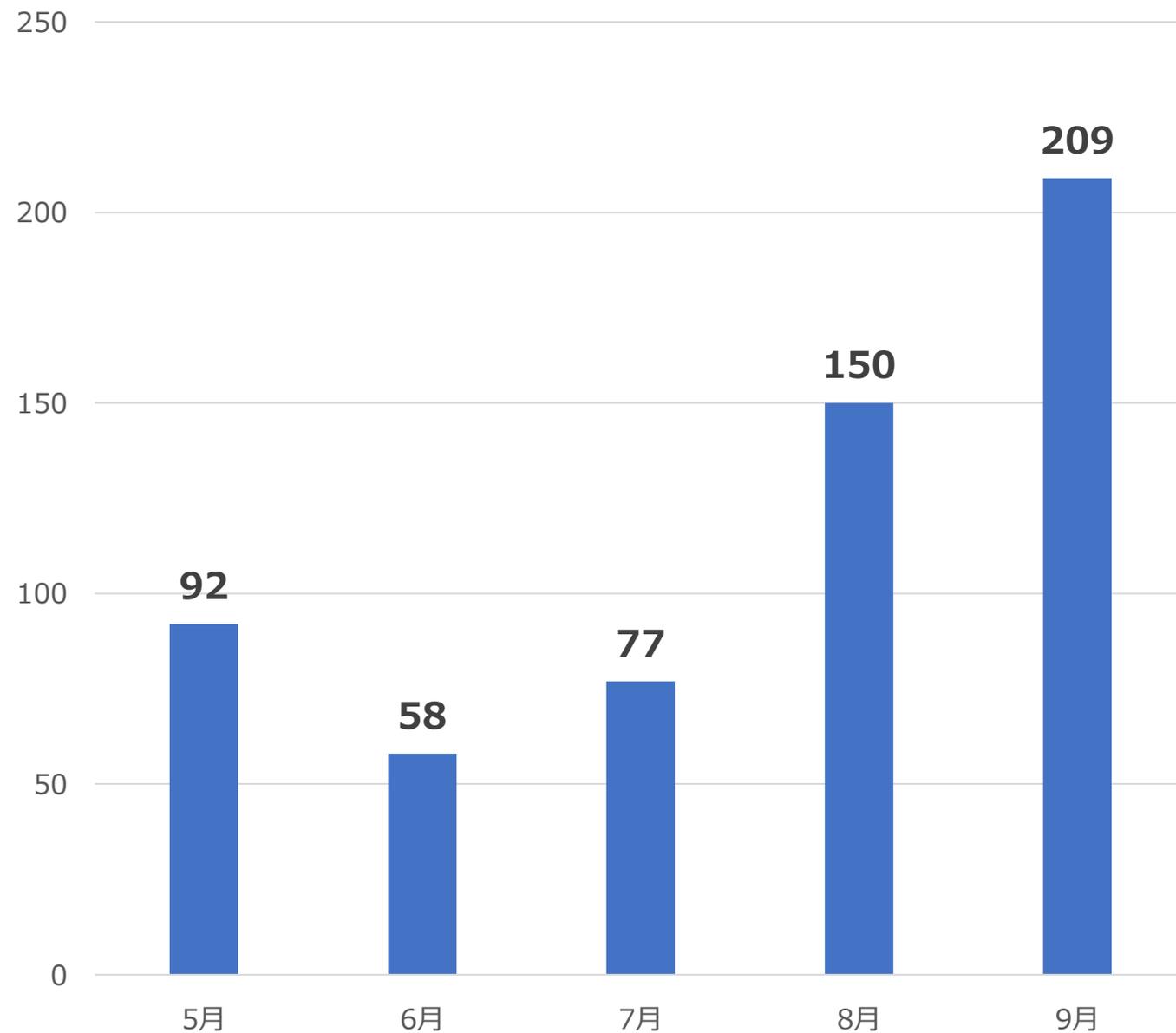
◆滅菌後、過酸化水素水の臭気がきになり使用できないため、臭気を飛ばすため干しておく。





Fitチェック (1860S)	5%以下
1回目	3.84
2回目	3.28
3回目	2.91

滅菌個数



今後の課題

- ◆中等症以上の患者搬送、入院を想定した準備
 - ✓物品の確保、調整
 - ✓職員へ当院の傾向をフィードバックし、認識を深める
 - ✓個人防護具・標準予防策の遵守再確認
- ◆N95レスピレーター運用の見直し
 - ✓使用タイミングの統一
 - ✓ユーザーシールチェック等使用方法の再確認
 - ✓フィットテストの実施を継続していく